



東京都国分寺市  
市議会議員

皆川りうこさん



**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 1957年(昭和32年)1月10日生まれ64歳。岩手県北上市出身で高校まで住んでいました。

**Q** ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

**A** 谷戸沢の最終処分場問題です。自分自身のごみの出し方や暮らし方を見直すきっかけとなりました。そのひとつとして、個包装が少ない共同購入や、リターナル瓶もごみの減量につながることもあると思い、生活クラブ生協に加入しました。

昨今では、女性の社会進出、就労の増加とともにライフスタイルも変化し、高齢化や一人暮らしなどの会員のニーズに合わせた個人配達が増加し、手間のかかる共同購入は激減しています。

私自身は現在も班による共同購入配達で、数人分が一か所に届くことで配達による排気ガスの省力化、ごみの減量化に少なからず寄与していると思います。けれど、加入当時とは異なり、食材や冷凍食品などの種類も増え、個人購入が多く便利さを享受しています。そして、間違いなくプラスチックごみが増えているなあとと思う今日この頃です。

**Q** ごみかんに入会して下さったきっかけは？

**A** ごみ・環境ビジョン21の会員だった元国分寺市議会議員の亀倉順子さんからの誘いがあり、加入しました。

ちなみに、ごみかん事務局の井上真紀子さんがごみ問題に関わるようになったのも、元を質せば亀倉さんの後押しがあったから、とのこと！さらには、八王子市在住の私のいとこが井上さんと「山つながり」の知り合いで、毎年泊りがけで山歩きをしているという事がわかり、二重にビックリです。

いろんなご縁は大切にしたいもの。「It's a Small World」ですね。

**Q** ごみ問題に関わること以外で、趣味や生きがいは？

**A** 少人数でリコーダーを習っています。私以外の皆さんは10年以上前から、私自身は5年ほど前から始めました。

「無理せず、楽しく、前向き」が長く続いている秘訣といえます。人前での演奏はしないので成果のほどは不明ですが、何よりも指、耳、視覚を使うので「脳トレ」になっていることは確かです(^\_^♪)

**Q** 特筆すべき近況があれば、教えてください。

**A** 先日、外国人にわかりやすく情報を伝えるための「やさしい日本語」(易しくて優しい)についてお話を聞く機会がありました。実は、市の広報物については、まだまだ不十分なようです。

そこで私が気になったのは、だれもが関係する「ごみ」。市の「ごみのカレンダー」を見ると一部多言語化されているのですが、訳されてい

ない単語も多く、外国人の方が困っていることはないだろうかと思いました。

国分寺市のHPにごみの分別で迷うものとしてたくさんの事例が紹介されているのですが、「天然、科学繊維」「圧着ハガキ」「感熱紙」などわかりにくいものだらけ。今後、具体的な表現やイラストを入れるなど工夫は必要でしょう。

外国人だけでなく、子ども、高齢者。障がい者とのコミュニケーションにも有効。ユニバーサルデザインとしての「やさしい日本語」について、改めて考えたいテーマと思っているところです。

「やさしい日本語」の正解は一つではないとのこと。一例ですが、「予防接種5000円に対して、2000円を助成します」との表現。助成とは?? 上から「してあげる」との発想?? 要するに「3,000円です」で良いのではないのか…と、こんな話もしました。

**Q** ごみかんにご期待したいこと、提案したいことはありますか？

**A** 以前、区議の方と23区のごみ処理についてお話ししました。2000年に「二十三区清掃一部事務組合」が設立され、ごみの減量が進みました。しかし現在、不燃ごみは埋め立て、プラスチックの分別も区によって対応が異なり仕組みも複雑であることがわかりました。さらに、最終埋立地の東京湾はあと数十年で満杯。多摩地域もそうですが、人口の多い23区はさらに深刻です。

このような中、改めてごみかんが発信する「多摩地区30自治体のごみ減量、資源化、焼却、埋め立て、処理経費など」の情報は貴重であることがわかります。地道ではありますが、ごみかんには今後も調査活動など継続していただきたいとともに、議会としても市民活動を応援する立場で取り組んでいきたいと思っています。